

共に生きる WITH LIFE

2023
ウィズライフ
第58号

テーマ

積雪期の暮らしを安全快適に



私たちの「願い」

私たちは、公益に資する法人として、

- 「高齢者も障がいのある人も社会で共に暮らし、共に生きることがノーマルである」というノーマライゼーションの理念に基づき、
- 高齢者や障がい者が安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、
- すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与することを目的に取り組んでおります。

私たちのこの「願い」のため尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団
理事長 土屋 昌三

WITH LIFE 第58号 目次

特集 積雪期の暮らしを安全快適に

- 4 ^{ていだん} 鼎談 雪と上手に付き合うために、雪を知ろう
冬道で困っている人がいたら声をかけよう
一般社団法人北海道開発技術センター 理事 原 文宏さん
公益財団法人北海道盲導犬協会 西川依子さん
有限会社環工房 代表取締役 牧野准子さん
- 10 ここが知りたい
(1)札幌の除排雪対策と雪に関する情報提供の窓口
(2)冬の移動をサポートしてくれるサービスの内容と利用の仕方
- 14 介護・自立サポートアイテム 雪道移動に期待 電動車いす「マジック360」
- 16 生きがい空間 探訪 札幌市 菅原信寿さん・夢乃さん
- 18 トピックス 思いは一つ。「小樽の街にあかりを広めよう」
- 19 「ノーマライゼーション住宅財団」活動紹介

2023年11月1日発行

発行人／土屋昌三

発行所／公益財団法人 ノーマライゼーション住宅財団◎

〒060-0042 札幌市中央区大通西16丁目2-3ループル16 9F

TEL 011-613-7551 FAX 011-612-8431

URL <http://normalize.or.jp/>

【制作スタッフ】 ●編集協力／株式会社日本商工振興会

●編集総括／奥野 彰 ●レイアウト／高部友恵 ●表紙イラスト／佐藤正人

【印刷】株式会社須田製版

池田 啓子さん (73)

社会福祉法人ともに福祉会 理事長
株式会社特殊衣料代表取締役会長



池田さんが理事長を務める「ともに福祉会」では、併設するギャラリー棟1階に施設利用者の作品を常設展示し、無料開放(日曜休)。商品も販売している

障がいのある人の就労支援に取り組む

「ともに福祉会」のギャラリーで

施設利用者の作品に囲まれて語るとき、

池田啓子さんの表情は、ひときわ輝いている。

「彼らは普段、特殊衣料のクリーニング作業の一端を担い、

木曜日の午後は、ここで絵を描く…。

そうして生まれた作品を、代わる代わる展示しています」

作品は、「ともに福祉会」によりカレンダーや雑貨として

商品化され、全国に多くのファンを持つ。

「一般商品と一緒に並ぶ中で、これが、いい」と選ばれ

買っていただける本物を作ろうと励んでいます。

仕事もアートも、褒められ収入が得られる喜びは格別で、

それが自信となり、日々の安心にもつながっています」

「ともに福祉会」の原点は、障がいがあっても

高齢化で働く能力が減退しても

安心できる居場所づくり。

笑顔の職員が寄り添い、

家族、企業、地域、関係機関と連携し、

ともに働き、ともに支え、ともに歩む。

文／大藤紀美枝
写真／伊藤留美子



ギャラリー棟2階の「マイ
デスク」でクリーニング
作業の一端を担い、木曜
午後はのびのび創作

※社会福祉法人ともに福祉会(札幌市西区発寒14条14丁目2-33 TEL.011-663-0200)

ていだん
鼎談

雪と上手に付き合うために、雪を知ろう 冬道で困っている人がいたら声をかけよう

一般社団法人北海道開発技術センター 理事
地域政策研究所 所長 博士(工学)
原 はら

原 はら
文宏さん
ふみひろ

公益財団法人北海道盲導犬協会
指導部 生活訓練担当
にしかわ

にしかわ
西川 依子さん
よりこ

有限会社環工房 代表取締役
公益財団法人ノーマライゼーション住宅財団理事
まきの

まきの
牧野 准子さん
じゅんこ

北国に暮らす人にとって、大雪は悩みの種。除雪・排雪はもちろん、歩行においても負担は大きく、身体に障がいがあれば一層深刻です。雪問題に精通する原文宏さん、視覚に障がいのある人の歩行指導等を行う西川依子さん、視覚に障がいのあるユーザーの牧野准子さん(当財団理事)と共に、雪に関するバリアの対応策を探っていただきました。

構成／大藤紀美枝 写真／伊藤留美子

雪が降ったらまず除雪
冬道には危険がいっぱい

——ひと冬に4m以上も雪が降る札幌は、「世界一雪の多い大都市」と言われますが、2021年12月から翌年3月にかけての雪害は深刻でしたね。

原 ええ。大変でした。でも、ひと冬の降雪量は例年並みで、特別、大雪だったわけではないうんです。深刻な事態を招いた原因は、まず、「ドカ雪」の日が6回と例年より多かったこと。しかも、湿った重い雪で、降った後にガンと冷え込んで水のようにになりました。そうしたことで除雪作業がすごく遅れてしまったんです。

また、除雪のオペレーターや運搬排雪トラックの運転手

が十分確保できなかったことも痛手でした。気候変動はもちろん、社会状況も大きく変化しており、関係機関は一年の経験をもとに、広い視野で対策を練っています(本誌、10ページ参照)。

西川 私は大阪出身で、17年前、北海道盲導犬協会への入職を機に北海道に移住しました。初めての冬は、北海道のホワイトスノーを見て喜んでいましたが、2年目から、雪を見ただけで「除雪」が頭をよぎるようになりました(苦笑)。

牧野 積もったままにしておけないですからね。かつて、私も出勤前の除雪が苦痛でした。朝、汗だくになって除雪をすると、セットした髪もお化粧も崩れ、見る影もない

です(苦笑)。

18年前、進行性の脊髄の難病を発症してからは、少しずつ歩けなくなり、杖をついていた時期もありましたが、わずか1年で車いすが必要な障がい者になりました。今は自分で除雪をすることはありませんが、事あるごとに雪の怖さを痛感しています。雪道には危険がいっぱいあって、一つ間違えば、命にかかわりま

すから。
原 雪問題は誰にとっても難題で、高齢者や障がいのある人においては、さらに厳しいものがあると思います。

——原さんは、札幌市や旭川市の雪対策に関わり、いろんな調査研究をなさったそうですね。



それぞれの豊富な経験をもとに語る牧野准子さん(左)、原文宏さん(中央)、西川依子さん(右)

原 ええ。路面凍結に関して言えば、1991年スパイクタイヤが禁止になって以降、つるつるの路面が頻発するようになりました。そこで、札幌市で市民の歩く様子を把握するため、定点カメラを設置して現地調査をしました。

録画を再生すると、路面が滑るだけでなく、車道と歩道との間にできたスロープも難所となり、高齢者や障がいのある人にとって本当に危険な状態であることがわかりました。一例を挙げると、ある人は、杖をついていたものの、杖そのものが滑ってしまい、そのまま倒れて、自分ではなかなか起き上がれませんでした。気づいた人が助け起こしたのですが、冬道の厳しさとともに、人の優しさを感じ入りました。

それから、北海道開発技術センター(原さんは、現在理事)に「日本福祉のまちづくり学会」の北海道支部が置かれ、事務局的なこともやっているのですが、交通バリアフリーに関する研究にも力を注いできました。盲導犬を連れて歩行しているときの、盲導犬の車に対する反応を調査したこともあります。

杖に関する知識を持ち杖を使う人に心配りを

——杖のお話が出ましたが、杖を必要とする人にとって、杖は命綱となるものですね。

牧野 今から18年前、杖をつけていたとき、私は雪道対策として、杖の先にアイスピックのようなものを装着していました。でも、建物の中に入るときは、その部分を畳まなければなりません。畳むとき体を支えるものがなくなるので、容易ではないんです。入り口にありますがあれば、座って畳めますが、なければ周りの方にお願ひして畳んでもらうしかありませんでした。

そうした経験から、屋外から建物内へ入るとき杖の先に手をかけないで済むよう、生ゴムのようなものを杖先に取り付けてもらえないか、長靴メーカーにお願いしたんですけれど、「研究する余力がない」と断られ、工業試験場に相談すると、「ホームセンターで生ゴムのようなものを探してみたら」という回答でした。今は、杖の種類も随分、増えましたね。

西川 そうですね。私は、視覚に障がいのある方の白杖歩



西川 依子 (にしかわ・よりこ)

2006年北海道盲導犬協会に入職。盲導犬の訓練を担当後、盲導犬訓練士に認定。さらに、白杖歩行指導員、盲導犬歩行指導員の資格を取得。盲導犬貸与（共同訓練）担当を経て、盲導犬の普及啓発活動等を担当し、2021年から現職にて、視覚障がい者の白杖歩行や生活訓練を担当。1983年生まれ。

公益財団法人北海道盲導犬協会
札幌市南区南30条西8丁目1-1
TEL:011-582-8222
URL:<http://www.h-guidedog.org/>

視覚障がい、情報障がいでもありません。 有益な情報を集め、提供方法も熟慮します。

行指導員ということもあって、折り畳み式の白杖を2種類持参しました。一つはコンパクトに折り畳めてバッグにも入るタイプ。ロービジョン（視機能が弱く見えにくい）の方が、視覚障がいがあることを周囲に知らせる意味合いで使っていることもあります。

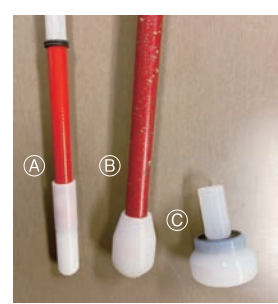
もう一つは、折り畳み式でも握りのしっかりした単独歩行用の白杖。先端部分は雪に刺さりにくい形状の石突を取り付けています。歩く際に白杖の杖先が地面に引つ掛かることは、持つ人にとってストレスになるので、この石突のように、安全性と使い勝手に配慮したものが開発されています（右下の写真参照）。

今日の午前中、白杖歩行訓練を担当した方は、道外から移住し、「今年、初めて北海道の冬を経験するので、夏場から訓練を」と、毎週、北海道盲導犬協会にいらしてらんです。

見えづらさがある方などに、白杖を必要とされるみなさんに、適切な種類、サイズのものを選んで、使い方・歩き方を学ばれることをおすすめています。

見えづらさがある方などに、白杖を必要とされるみなさんに、適切な種類、サイズのものを選んで、使い方・歩き方を学ばれることをおすすめています。

折り畳み式白杖2種と杖先（石突）3種



①単独歩行用のしっかりタイプ。
②折り畳むとバッグにも入るコンパクトタイプ。

- ①白杖の直径よりやや太いスタンダードの石突。
 - ②着地面積が大きく雪に刺さりにくいドロップ型の石突。
 - ③着地面積が大きく雪に刺さりにくい上、段差などの衝撃を緩和するためのゴムが内蔵された石突。
- ※鼎談時は①の白杖に③を装着。

写真提供：北海道盲導犬協会

完璧な道路状況は無理 それを補うのは人の力

牧野さんが体験した「冬道での困りごと」を教えてください。

原 ロードヒーティングでできた段差は、氷割りの要領で砕いて解消するぐらいしか手立てがないんですよ。じゃあ、誰がそれをやるのか…。札幌市の場合、歩道に対するロードヒーティングは、歩道とつながる「地先」の所有者が運営するのが一般的です。一部交差点の車道と歩道のロードヒーティングは、公共



牧野 准子 (まきの・じゅんこ)

建築士、インテリアコーディネーターとして活躍。進行性の難病のため、2005年から車いすユーザーに。車いすの建築士としてインクルーシブ、ダイバーシティの目線で福祉住環境に配慮したまちづくり、障がい者雇用対策、ユニバーサル観光ツアーリズム普及等の調査・提言・講演を行っている。1958年生まれ。

ユニバーサルデザイン 有限会社環工房

札幌市西区二十四軒4条3丁目1-12-603
 TEL:011-644-0334
 URL:https://kankoubou.jimdo.com/

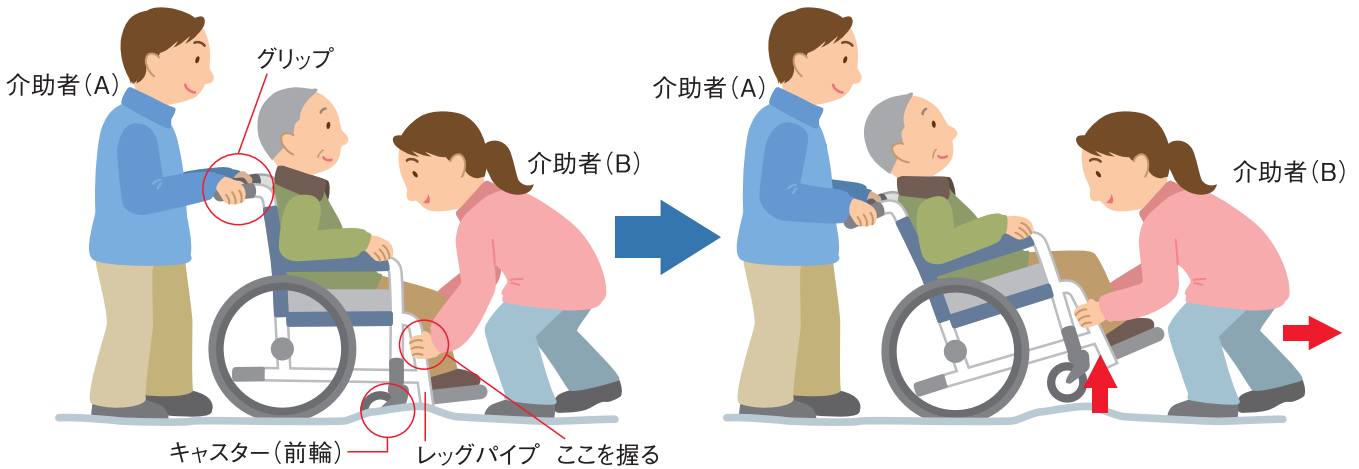
さまざまなるバリアを取り除くには、心のバリアフリーが何よりも大切です。

の道路管理者が運営している箇所もあります。
 牧野 そうですか…。なかなか難しいですね。車いすのタイヤが雪に埋まったときも、人の力でしか助けてもらえないんですね。

の小学生が「何かお手伝いしましょうか」と走ってきてくれたんです。「ココとココを持って、ちよつと引つ張ってくれる!」とお願ひすると、快く引き受けてくれ、脱出することができました(下図参照)。このことに限らず車いすユーザーに対する介助のノウハウを、多くの方に知っていただければと思います。

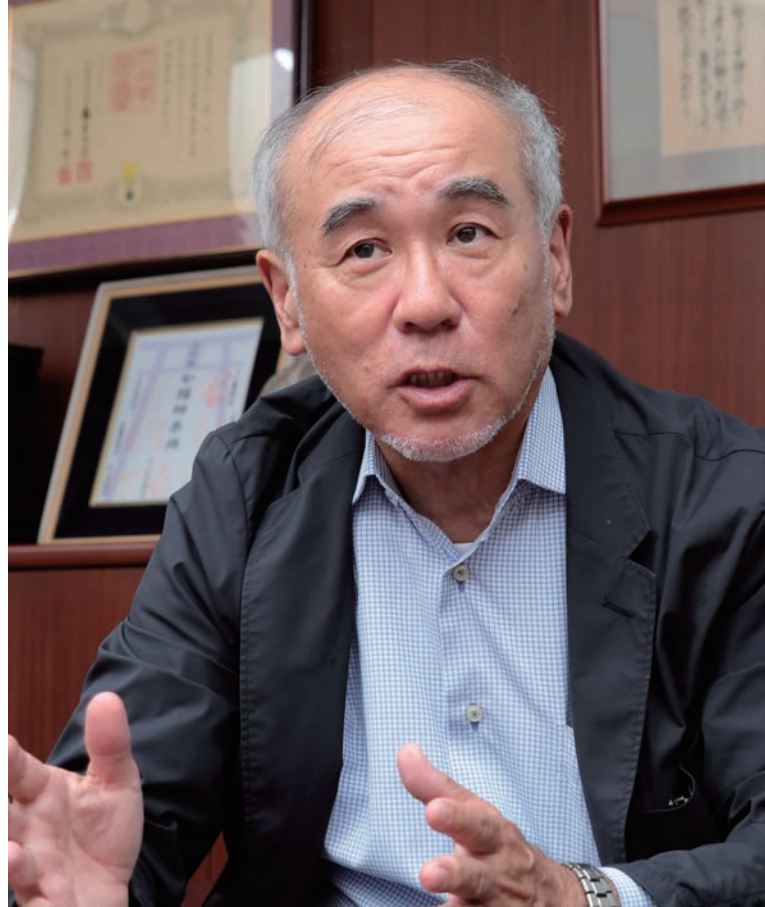
原 現実問題として、冬道を車いすで自由に通行するのは、難しいですね。冬道は、障がいのない人でも難儀するわけですから、札幌ではロードヒーティングや除雪に頼るより、地下鉄を活用し地下通路にうまく連結できるように都市や地下街システムの充実を図る方向に舵を切ってきたように感じています。

車いすの前輪が雪に埋まったときの介助法



- 1 介助者(A)は、グリップを握る。
- 2 介助者(B)は、キャストアの上のレッグパイプ(両方)を握って持ち上げ、キャストアを浮かせる。
- 3 介助者(A)は、キャストアを浮かせた状態の車いすを押し。
- 4 介助者(B)は、(A)が車いすを押しするのに合わせて、前に引っ張る。

※砂利道や砂地で車いすのタイヤが埋まったときも、この方法で。



原 文宏 (はら・ふみひろ)

積雪寒冷地の地域計画や交通計画、雪害対策に関する調査研究および地域住民と連携した地域づくりの実践活動を行い、国の「ふゆトピア事業」や札幌市の「雪さっぽろ21計画」にも関わる。国土交通省の雪国の未来を考える懇談会委員等、雪やバリアフリー関係の多数の公職に就き、講演も多い。1955年生まれ。

一般社団法人北海道開発技術センター
地域政策研究所

札幌市北区北11条西2丁目2-17 セントラル札幌北ビル
TEL:011-738-3364 URL:http://www.decnnet.or.jp/

除雪問題だけを捉えるのではなく、まちづくりとしての取り組みが肝要です。

従来の除雪・排雪のやり方だと、コストもかかるしエネルギーも消費します。まちづくりの視点で総合的に取り組むことが、雪問題の解決にもつながると思います。

「車いすの建築士」として、障がいに応じた困りごとや配慮の手法をお伝えする「心のバリアフリー研修」の講師を務めるなど、さまざまな活動を行っていますので、私どもの環工房までお気軽にお問い合わせいただけます。

滑らない靴は滑って転ばぬ先の杖
—— 冬道に関し、視覚に障がいのある人は、どんな困りごとがありますか。
西川 雪が積もると路面の視覚障害者誘導用ブロック（点字ブロック）が埋まってしまいます。視覚に障がいのある方は、雪が山になっていると横

断歩道ですら渡るのが難しいです。転倒も怖いんです。けがはもちろん、滑って転倒して、起き上がった時点で体の向きが変わっていると、方向がわからなくなってしまうんです。
また、見えない分、音を頼りに状況を観察するので、雪壁があると音が聞こえなくなってしまう。
原 雪は吸音効果が高いですからね。
西川 そんなわけで、「冬場も出かけたいたんだけれど、出かけるにいくくなる」というのが、全道の視覚に障がいのある方の課題になっていますね。
「視覚障がい」と言っても、お一人お一人障がいの程度や見え方が異なり、例えば、冬場、晴れていたら雪に光が反射して見えなくなる方もいらっしゃいます。そのような場合、まぶしさをカットするメガネをかけてもらって、歩く練習をしています。
原 冬道の段差については、いかがですか。
西川 盲導犬は段差があると、そこをよけたり、立ち止まったりして教えてくれますが、白杖で単独歩行をしている場合、段差により生じた「下に落ちる感覚」が、なかなかつか

かめないんです。ですから、常に緊張を強いられます。
「同行援護」と言って、視覚に障がいのある方を誘導したり、代読や代筆するサービスもあります。コロナ禍が続く中でサービスの担い手がどんどん減少し、同行援護を頼みたくても頼めない状況です。
—— 冬道での転倒防止策として、各所で「滑らない靴」が話題に上りますが…。
原 北海道開発技術センターに事務局を置く「ウインターライフ推進協議会」（左ページ上部のコラム参照）では、Webサイトで「転ばないコッおしえます。」と題して、靴選びや歩き方などを紹介しているので、チェックしてみてください。
牧野 毎シーズン、新たな「滑らない靴」が登場しますね。私も常に注目しています。
原 カーリングをする人が、片方の靴に付けている滑り止めは、グリップ力がありますね。
西川 盲導犬使用の方も白杖を使う方も、毎年、冬のテーマの一つとして「滑らない靴」が挙げられます。実は、盲導犬の訓練担当職員がカーリングの靴を試してみることがあるんです。雪道でもスノーパーな

ウィンターライフ推進協議会

積雪寒冷地の生活環境構築の推進に貢献するため、民間企業や地域団体、教育機関、行政機関などが連携し、Webサイトで情報を発信するなど、さまざまな取り組みを行っている。

●札幌発!冬みちを安全・快適に
歩くための総合情報サイト

URL: <https://tsurutsuru.jp/>



雪問題の解決に 欠かせない共助と教育

ど建物の中でも確かに滑らないのですが、一日で靴の裏の素材が剥がれてしまいました。原なるほど。いずれにしても、「どんな所でも100%滑らない靴」は難しいと思います。今のところ、雪道、つる路面、建物の中と、状況に応じて履き分けるのと同じように歩いてほしいと思います。

—— 除雪ボランティアの活動状況は。

原 各所で除雪ボランティアを立ち上げていますが、何キ口も離れたところから、求め

られたらすぐに駆けつけるには無理があります。自助が困難な場合は共助となり、具合が悪い70代の人の家の周りの除雪を、近所の80代の人が行っているといった地域が、道内にたくさんあります。

高齡化と人口減少の中で、共助も難しい状況になっていますが、元気な方は高齢者という枠を気にせず、どんどん活躍してほしいです。

—— 路面状況にしる、除雪体制にしる、情報収集が大事ですね。

西川 視覚障がいには、情報障がいでもあるので、「こういう情報がある」「こういう商品がある」ということを知る必要があります。私どもは、常にアンテナを張り巡らして、情報提供に努めています。もちろん、ご自身でも情報を集めていらっしゃいます。スマホを使いこなしている方は、音声で検索してコンパス(方位磁石)やナビも活用しています。

自宅の除雪をするとき、雪かきに熱中して方向がわからなくなったら困るので、玄関先にラジオをぶら下げたりインターフォンから音を流すな

どして、玄関の方向を確認していらっしゃる方もいます。

牧野 インターネットでいろんな情報が得られる時代ですが、活用できない方もいらっっしゃいます。「広報さつぽろ」(点字版、音声版あり)など行政や関係団体の広報でも、大事な情報をわかりやすく紹介していますから、しまい込まずに活用したいものです。

西川 北海道盲導犬協会では、盲導犬ユーザー向けの情報を、マルチメディアデザイン(専用機とCDを用いてテキストを音声で再生)、メール、カセットテープなど、その方が望む方法でお届けしています。

牧野 自分が体験して得た情報をみなさんにお知らせすることも大事ですね。建物の中で視覚に障がいのある方と行動していたとき、「トイレに案内するから、私の車いすの後ろにつかまって」と言って、最短距離を考えながら移動したら、「くねくね動いたら、自分がどこにいるか、わからなくなる。方向を変えるときは直角でお願いします」と言われ、そういうものかと思いました。

西川 原さんも牧野さんも、いろいろなところで講演されていますが、私も市内の小

生、主に4年生に盲導犬や視覚障がいについてお話しすることがあります。何か困っている人を見かけたら、「こんにちは」と挨拶してください」と言うと、「これから挨拶します」と元氣よく応えてくれます。声をかけることが、手助けの第一歩になりますね。

原 雪問題を解決するにも、バリアフリーを推進するにも、教育が大切です。札幌市は10年ほど前、「読書」「環境」「雪」の三つを札幌らしい特色ある学校教育のテーマに据え、市内の小生が使う

「わたしたちの札幌」という副読本の4年生下巻には、「雪と暮らす」という単元があった。5時間、除雪などに関する授業を行っています。

よく聞く話ですが、「自宅の除雪をし終えたところに除雪車が来て、家の前のかき分けたと置いていかれた。何でこうなるのか」。文句の一つも言いたくない

るお気持ちには、よくわかります。でも、そうなる背景がわかると、納得する部分が出てくると思うんです。市や関係団体の担当者には、雪問題の原因と対応策を市民にきちんと知らせていく活動を、批判を恐れずにどんどんやってほしいです。

牧野 私たちも市民生活において、何が不便で、何が必要か積極的に発信し、討論し、解決の道を探っていかなくてはなりません。

西川 そう思います。



2023年9月7日、当財団応接コーナーにて

札幌の除排雪対策と 雪に関する情報提供の窓口

「世界一雪の多い大都市」と言われる札幌市では、どのような除雪・排雪が行われているのでしょうか。冬をより快適に過ごすには、雪に関する制度や取り組みを知ることが大事です。そこで、札幌市土木部雪対策室を訪ねました。

取材・文／大藤紀美枝

大雪経験を踏まえ 入念な除排雪対策

2021年12月から翌年3月にかけて、まれに見る雪害を経験した札幌市。一日当たりの降雪量が20cm以上の「ドカ雪」が例年よりも多い6回あったことや、気温が比較的温暖かい中で湿った重い雪が連日降ったことなどから、道路の幅が狭くなったり、ザクザク

ク路面が多発し、市内各所で交通渋滞が発生しました。

札幌市の令和3年度の排雪量は過去10年平均比の約1.7倍となり、除排雪費は過去最大の約31.6億円（当初予算は約21.4億円）に上りました。このような経緯から、札幌市では、どのような対策が練られたのでしょうか。

2022年11月に改正された「大雪時の対応指針」をもとに、大雪時対策のポイント

を雪対策室事業課の土肥鋭次さんに伺いました。

「大雪対策として三つのフェーズ（段階）で、状況に応じた対策を講じます。

積雪深が50cmに達するなど大雪が見込まれるときは、フェー

ズ1として、幹線道路の運搬排雪を前倒しします。通常は1月上旬から開始しますが、状況に応じて12月から行います。

従来、道路脇に雪山の一部を残す「切込排雪」でしたが、大雪対策時は全て排雪します（図1）。

フェーズ2は、局地的（一部の区）な大雪で、パートナーシップ排雪（地域と市が協働

で生活道路の排雪を行う制度）作業の遅れが見込まれるときに、他区の除雪事業者や関係団体に応援を要請し体制を強化します。

フェーズ3は、全市的（半数以上の区）な大雪による排雪作業の遅れが見込まれるときに、生活道路の緊急排雪（費用は市が負担）を行うもので、作業スピードを重視して

います」

なお、札幌市では、緊急排雪作業の効率化を図るため、生活道路を「幹」と「枝」の路線に分け、幹の路線は、緊急排雪を行うダンプトラック

の走行に必要な道幅を確保し、枝の路線は、路線に比べ道幅は狭くなりますが、車の走行に支障がない程度の圧雪に

しているそうです（図2）。

図1：運搬排雪のイメージ

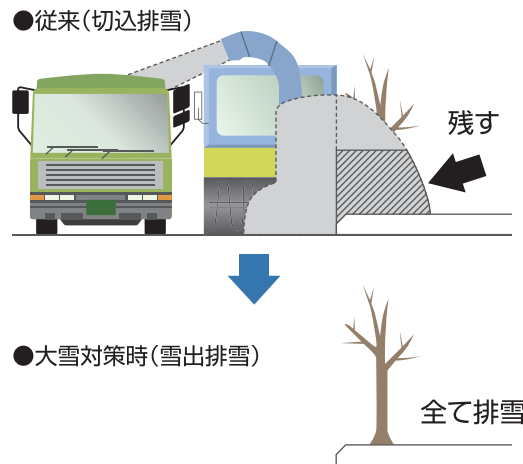


図2：幹・枝分けイメージ



■ 幹の路線 ■ 枝の路線
■ 幹線道路・バス路線等

※図1、図2は、「令和4年度 大雪への対応に関する検討」（札幌市HP）より



札幌市建設局土木部雪対策室

事業課 土肥 鋭次さん(左)

計画課 照井 亮佑さん(右)

各除雪センターが指揮 通勤・通学前に除雪

札幌市は、かねてより市域をマルチゾーン方式で23の区域に分け、除排雪を行っています。複数の会社で構成される共同企業体が、車道除雪・歩道除雪・運搬排雪などの作業を、区域ごとに実施するの効率がよく、また、市民からの要望にも速やかな対応が可能です。

こうした対応を行うため、各区に「除雪センター」を設置しています。24時間体制で業務を行い、もっぱら交通量の少ない深夜から早朝にかけて除雪作業を行っています。

札幌市民であれば、睡眠中、この「深夜の除雪作業の音」が目が覚めた経験は、少なくないはず。雪に関する相談窓口となっている雪対策室には、そうした市民からの問い合わせがないか、計画課の照井亮佑さんに尋ねると。

「除雪作業の音がうるさいという苦情は、少ないです。みなさん、除雪作業がなぜ、その時間帯になるのか、ご理解いただいているからだと思います」とのこと。

では、苦情や相談として多

いのは、どのようなことなのでしょう。

「除雪車が、玄関先や車庫前に雪を置いていくといったご相談が最も多いです」と照井さん。

「札幌市では、目安として10cm以上の降雪があり、通行に支障が生じると見込まれるときに、道路の両脇に雪を寄せる「かき分け除雪」を実施しています。通勤・通学の時間帯までに、この作業を終える必要があります。限られた時間内に全ての道路で作業を終えるためには、出入り口前であっても雪を寄せざるを得ません」と土肥さん。

ちなみに、札幌市全域をひと晩で行う「かき分け除雪」の総延長は、5400kmに上るそうです。

雪情報をチェックし 新しい冬を快適に

札幌市が行う、道路脇に寄せた雪をダンプトラックに積み込んで雪堆積場へ運ぶ作業を「運搬排雪」と言います。運搬排雪の対象となるのは幹線道路や一部通学路です。

住宅街の生活道路は、前述のパートナーシップ排雪（ひ

と冬に1回利用可能）が利用できます。

道路に面する一戸建てで所定の条件を満たしていれば利用できる「福祉除雪」、市民や企業が行うつる路面への「砂まき活動」、企業や学生などが行う「除雪ボランティア活動」など、雪対策に関する協働の取り組みも多種あるので、知っておきたいものです。

札幌市では雪に関する情報を「広報さつぽろ」や「冬のくらしガイド」、札幌市公式ホームページやLINE、YouTubeなど、さまざまな手法で紹介しています。

「各ご家庭に、『広報さつぽろ12月号』と一緒に配布している『冬のくらしガイド』では、イラストや写真を活用して雪対策をわかりやすく紹介しています。目につく所に置いて、日常的にご活用ください」と照井さん。

土肥さんによれば、令和4年度は、前年度に比べ厳しい気象状況ではなかったものの、北区と東区においてはフェーズ1の作業を実施したとのこと。

広い視野で雪や除排雪に関する知識を蓄えて、新たな冬に備えたいものです。

除雪・排雪などの情報提供

札幌市HP「冬の暮らし・除雪」

雪対策に関するパンフレットや動画、除排雪に関するQ&A、市内の気象情報、道路の除排雪に関する問い合わせ先等を掲載。
URL:<https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/index.html>



除雪の出動情報

市内の生活道路（住宅街の道路）の新雪除雪の出動情報を、テレビのデータ放送、札幌市HP等に掲載。
提供期間／12月1日～翌年3月20日
札幌市HP（更新頻度：10分間隔）



「冬のくらしガイド」

札幌市の雪対策などを紹介する冊子。例年、12月初旬、「広報さつぽろ」と共に市内各戸に配布。



雪かき指数

札幌市HPに翌朝の雪かき必要度を4段階で表示。
提供期間／12月1日～翌年3月20日
札幌市HP



除雪など、雪に関する制度に関する問い合わせ先

建設局雪対策室計画課 ▶ TEL：011-211-2682

除雪作業に関する問い合わせ先

除雪センター

市が業務を委託。市内23カ所（札幌市HP参照）にあり、道路の積雪や気象などをもとに、除雪作業の有無や内容を決定する。
開設期間／12月1日～翌年3月20日。この期間以外は、各区土木センターが対応。

各区土木センター

市土木部維持管理課。市内10カ所にあり、除雪作業の管理や監督を行っている。
対応時間／8：45～17：15

中央区	▶ TEL：011-614-5800
北区	▶ TEL：011-771-4211
東区	▶ TEL：011-781-3521
白石区	▶ TEL：011-864-8125
厚別区	▶ TEL：011-897-3800
豊平区	▶ TEL：011-851-1681
清田区	▶ TEL：011-888-2800
南区	▶ TEL：011-581-3811
西区	▶ TEL：011-667-3201
手稲区	▶ TEL：011-681-4011

冬の移動をサポートしてくれるサービスの内容と利用の仕方

寒いし、滑るし…。冬場は、高齢者や障がいのある人にとって、歩くだけでも大変。バスやタクシーを利用しても、その乗り降り心配です。「通院やお出かけに便利」と評判の移送サービスを提供する「札幌微助人倶楽部(ひすけつとくらぶ)」に、サービスの内容と利用の仕方を伺いました。

取材・文／大藤紀美枝

安全運転を徹底する 会員制移送サービス

札幌市中央区に事務所を置く札幌微助人倶楽部(以下、微助人)は、高齢者同士が支え合う有償ボランティア団体として全国的に注目され、その取り組みは、「札幌方式」と呼ばれるほど高い評価を得ています。冬場、特に喜ばれているのが、「移送サービス」。高齢になって歩行に不安がある人や、病気になるいは障がいのため移動に不安がある人にとって、玄関から

目的地までドア・ツー・ドアで送り届けてくれるサービスは、きわめてうれしいものです。「人材不足など、さまざま事情で路線バスの本数が減り、タクシーを呼ぼうとしても、なかなか電話がつかない…。お年寄りや障がいのある人は、外出するのが困難な状況が続いています。」

芳明会長は、張りのある声で語ります。

微助人の移送サービスは、福祉有償運送として国土交通省に登録。ドライバーを務める会員は、二種免許または普通免許を持ち、講習を受けるなど、幾つかの条件をクリアしています。

現在、ドライバー登録は25人(うち4人が女性)。約10人が特に活発に活動しているとのこと。

「ドライバーさんが25人になったので、安全運転管理者2人



札幌微助人倶楽部
会長
児玉 芳明さん

NPO法人 札幌微助人倶楽部

1996年設立。「ささやかに助け合うこと」をモットーに、移送サービスや訪問サービス(家事援助、介護・介助、除雪・庭仕事、パソコンサポート等)を提供。会員は約930人。入会金5,000円、年会費なし。



札幌市中央区北2条西13丁目1-10
札幌第一会計ビル3階
受付時間：平日10時～16時
TEL&FAX：011-252-9020
E-mail：
sapporobiscuit@rice.ocn.ne.jp
URL：
https://www.sapporo-biscuit.or.jp/

体制としました。また、全ドライバーさんにアルコール検知器を渡しており、毎回、運転開始前にアルコールチェックを行い、その結果を顔の画像と共にLINEで担当者に送信することを徹底しています。

移送サービス開始から26年間、利用者さんが乗車時の事故は1件もありません。ドライバーさんはもちろん、安全運転管理者、配車を担当する事務局スタッフと、みなさんの連携があればこそ、高度な安全・安心が維持できているのだと思います」と児玉会長は、安全管理体制の重要性を強調します。

サービスの受付は 微助人事務局

微助人の移送サービスを利用したい人は、まず、微助人に入会する必要があります(上記コラム参照)。年齢を問わず

誰でも入会でき、一人の入会で家族全員が会員扱いとなり、会員はサービスを受けることも、提供することもできます。入会手続きは、事務局に向いて行うほか、事務局に電話・ファックス・Eメールで入会を打診すると、担当スタッフが自宅まで来てくれます。なお、移送サービスを利用するには、次ページコラムにある要件を満たす必要があります。

微助人のサービスは、全て事務局で受け付けて、スタッフが手配しており、移送サービスにおいては、翌週分の移送対応日程を木曜日までに作成しています。

したがって、タクシーのように、電話してすぐに来てもらうというわけにはいきませんが、おおむねタクシー料金の半額程度で利用できるようです。移送サービスの利用目的は、通院、買い物、金融機関、親

類や友人宅の訪問、外食など。往復で移送サービスを依頼する場合は、用を済ませている間、待機してもらおうこともできます（別途加算）。また、移送時の通院介助、同行等のサービスもあります（別途加算）。

車いすにも精通 こまやかにサポート

微助人では、車いす対応車への要望が増えているところから、会員所有車も含め3台用意。そのうち微助人所有の1台を任された佐藤則夫さん(69)は、週5日以上、移送サービスを担当しています。

「2022年3月から始めたんですが、先輩から、大雪で車が大渋滞して通常1時間で行くところ4〜5時間かかったことがある」という話を聞いて、安全運

転はもちろん、利用者さんへの気配りが必要だと思いました。

長時間、車に乗っていただければ、暖房でのがれようだし、トイレの心配もあります。今のところ、大渋滞には遭っていませんが、車内の空調や利用者さんの様子を気にしながら、しょっちゅう『大丈夫ですか』と声をかけています」と佐藤さん。

佐藤さんは、IT企業に勤めていた50代からNPO法人「飛んでけー車いす」の会に所属。ボランティアで車いすの修理にあたってきました。その技能と経験は、移送サービスにも生かされています。

「割り振られる移送サービスのうち、約2〜3割が車いすの方です。空気入れを常に車内に積んで、利用者さんの車いすのタイヤの空気圧を見て、必要な時は空気を入れてさしあげています」



札幌微助人倶楽部
移送サービス・車いす対応型車両担当

佐藤 則夫さん

病院のため移送サービスを利用し、加えて病院内での介助を依頼する人も少なくありません。希望すれば、診察室と一緒に入って、医師の話メモするな

ど、こまやかにサポートしてくれるのも微助人ならではの「利用者さんに喜んでいただ

ります」と笑顔で語る佐藤さん。玄関から車両までの歩行、車両の乗り降り、段差への対応など、移送サービスを担当するようになって、高齢の親族への気配りも自然にできるようになったとのこと。



札幌微助人倶楽部が所有する車いす対応車両(リフト付き)



認証マークを貼った車両に乗りし、気を引き締める佐藤さん

札幌微助人倶楽部の移送サービスを利用するには…

微助人の会員で、下記①～③のいずれかの要件を満たしていること

- ① 要介護認定を受けている(要介護1・2・3・4)。
- ② 障害者手帳を持っている。
- ③ 要支援認定を受け、医師の「移動困難」の証明がある。

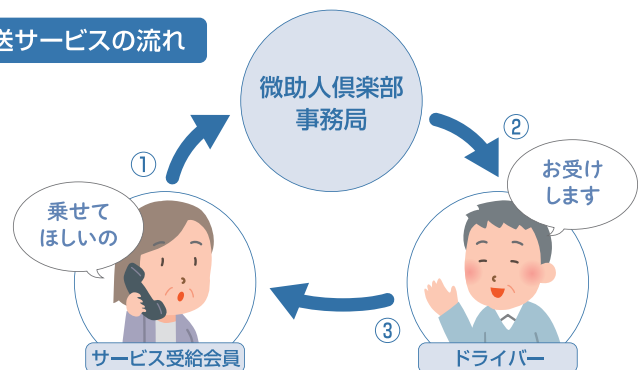
※利用予定日の1週間以上前に事務局へ申し込む。

料金

- 最初の2kmまでは400円。
- 以降、1km増すごとに150円加算。
- 清算は現金。ドライバー(サービス提供会員)に直接支払う。

※移送料金の内訳は、ドライバー謝礼金8割、札幌微助人倶楽部運営費2割。

移送サービスの流れ



介護・自立 サポートアイテム

4

これ
いいね!

「マジック360」 雪道での移動、走破性に期待が大 アクティブユーザー向け用電動車いす



悪路だけでなく多種多様な環境下で移動することを前提に設計されているマジック360は「行きたい場所に行ける」という性能を持つことで、ユーザーの自立心、自分らしさの追求を喚起することを目的に開発されました。



6輪独立式のサスペンションは振動を軽減するのはもちろん凸凹、傾斜に強く、ぬかるみや雪の道などでも走破性を発揮します。



駆動輪はクロスオーバー、オフロードの2タイプを用意。用途に合わせて交換可能です。

まさに雪道は車いすにとって天敵のようなもの。これまで手動、電動を問わず快適に雪道を移動できる車いすは皆無に等しい状況でした。このほど、130カ国以上で製品が愛用されるサンライズ・メデイカル社から販売されたこの「マジック360」は、そんな状況を打破できる可能性を大いに秘めた新しい電動車いすです。



レポート：
西村裕広

6つの車輪が 的確に路面を捕らえる

雪道走行を可能にしようとした電動車いすは、これまで皆無だったわけではありませんが、筆者の記憶するところでは10年ほど前、クローラ（キャタピラー）式のタイプが某社より発表されました。確かにクローラ式なら雪道での走破性や安定性に優れますが、屋内を含めた生活圏全般での実用性となると、やはり難しいようです。それ以来、その手のタイプのものを筆者は見たことがありません。

今年10月から北海道でも販売されたこの「マジック360」は、高い走破性と実用性が期待できる電動車いすです。通常4輪の車輪を6輪とし、駆動輪は平坦な場所を走行するタイプ、雪道や荒れた路面に



ベース幅610～660mm、半径回転は555mm。コンパクトで小回りも効くので、室内や混みあう市街地でも移動しやすく機動性十分。



電動のシートリフトやティルト、リクライニングなど身体状況に応じて搭載できるあらゆるオプションを用意。もちろん重度の障がいにも幅広く対応。

写真提供・取材協力

アビリティーズ・ケアネット(株) 札幌営業所

札幌市南区藤野2条4丁目1番2号
東光ストア 藤野店2F
TEL:011-596-9202
URL:<https://www.abilities.jp>

東光ストア藤野店の2階で広々としたショールームと共に営業するアビリティーズ・ケアネットの札幌営業所は、福祉機器を身近に手に取って、試乗して使い良さを確かめられる待望の福祉機器のショップ。

主な仕様

全長	983mm (レッグレストの選択、シーティングサイズにより変動あり)
座面高	435mm
回転半径	555mm
速度	時速5km(電動シート昇降使用時)
駆動けん引力	68Nmトルク、800W
耐荷重	160kg
衝撃テスト	衝突試験に合格ISO 7176-19の性能要件をクリア

対応するタイプを用意。路面状況に応じて装着して使用します。そして凸凹、あるいはぬかるんだ路面などでも6輪それぞれの確に路面に接地させる全輪サスペンションを採用することで、従来の電動車いすには無い走破性を実現しており、雪道でも機動力を発揮します。

**屋外だけでなく
屋内での使用も快適**

写真だけで見るとマッチョなオフロード用電動車いすという印象を受けますが、実際はコンパクトなサイズなのも特徴。車輪が搭載されているベアス部は幅610～660mm。小回りが効くので屋内でも使いやすい、生活圏全般で快適に使えるので実用性にも長けています。

マジック360の価格は220万円。国内での販売代理店であるアビリティーズ・ケアネットでは、札幌市内にあるショールームにデモ機を置く予定です。試乗が可能なので、気になる方はぜひお問合せを。

●札幌市

すがわら
菅原

のぶひさ
信寿さん
ゆめの
夢乃さん

将来を見据え、目標を持ち 今すべきことに力を注ぐ

取材・文／大藤紀美枝 写真／伊藤留美子



リビング・ダイニングで近況を語る菅原夫妻。夢乃さんが腰を下ろすソファベッドは、車いすラグビー仲間が宿泊したときセットしたものとのこと。

多機能型就労支援施設 ユニ・ノーマ

就労継続支援A型とB型を併設。
札幌市東区北24条東16
丁目1-1 第四中田ビル6階
TEL: 011-374-1531
E-mail: uninorma@hsssk.net

車いすユーザーが 快適に暮らす家

菅原信寿さん(46)・夢乃さん(33)夫妻が、両肩から下の四肢に障がいのある信寿さんの生活に障がいのある信寿さん内にバリアフリー住宅を新築したのは2018年のこと。それから5年。信寿さんは、自宅から自身で車を運転して多機能型就労支援施設ユニ・ノーマの就労継続支援A型に通い、夢乃さんはユニ・ノーマの理事および生活支援員を務め、充実した毎日を送っています。

夢乃さんは、かつて信寿さんも選手として活躍していた車いすラグビーチーム「SILVER BACKS(シルバーバックス)」のチーフマネージャーで、車いすラグビーの審判員でもあり、試合や大会のたびに全国各地へ出向いています。

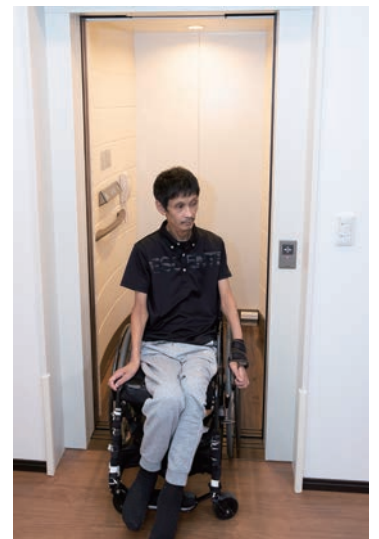
多忙な中、取材にご協力いただき、まずは、信寿さんの専用車を収めるビルトインガレージを見せたいいただきました。庫内は広々、スロープだと腕力が衰えると自力で上るのが難しくなるため、将来を見越して車いす用電動昇降機を設置しています。

信寿さんの1、2階の移動



信寿さんの愛車は、玄関ホールから出入りできるビルトインガレージに。車いす用電動昇降機を使って自力で移動する信寿さん。

用にホームエレベーターを設置。LDK、多機能トイレ、浴室、洗面脱衣室、寝室を2階に集約しているのも大きな特色です。車いすユーザーの信寿さんがスムーズに用が足せるよう、ほぼオープンスペースとし、段差もありません。



玄関ホールと2階リビングとを結ぶホームエレベーター。出入り口前は、十分なスペースを確保。

車を運転することが リハビリの目標に

信寿さんは、今から16年前、30歳のときに交通事故で頸椎の5番と6番を損傷し、四肢が「まひ」した状態となりました。計り知れないショックを受けた信寿さんですが、「なつてしまったものは、しょうがない」と現実を受け止め、人工呼吸器を外したときからリハビリに取り組み、寝たきりの状態から、起き上がり、もたれかかって体勢を保てるまでになりました。

入院8カ月で退院した信寿さんは、北広島市にある福祉サービ事業所に入所し、さらにリハビリに励むことに。「どうゆう風になりたいか、リハビリの先生(理学療法士、作業

療法士)と話し合い、メニューを決めていきました。一人でお風呂に入れるようになりたい。トイレも自分でできるように

なりたい。自分で買物に行けるようになりたい。順を追ってやっていけば、車が運転できるようにになると聞いて、気合が入りました」と信寿さん。

手動運転装置を取り付けたマイカーを持つことで、楽しみが増え、行動範囲が広がったのは言うまでもありません。その後、一般的な環境に身を置こうと、信寿さんはマンションでの一人暮らしを決行。福祉サービ事業所の職員(介護福祉士)で、顔見知りだった

夢乃さんが、「ヘルパーさんと連絡つかなかつたときとか、声をかけてください。お手伝いします」と申し出、アドレスを

交換したことで距離が縮まり、徐々に交流を深め、2017年に結婚。現在に至っています。

夫と妻で家事を分担 それぞれの仕事に励む

「左肩を痛めてから、無理をしない方がいいと言われ、車いすラグビーを卒業しました。トレーニングをしていないこともあって、体力の衰えを感じます」と信寿さん。

そうは言っても、入浴やトイレはもちろん、自身の衣類の洗濯もし、食器洗いや清掃(お掃除ロボットを活用)も担当しています。

平日は、10時から17時までユニ・ノーマでパソコンの入力作業等に励んでいます。が、デスクワークなので、施設の駐

車場から施設まで約150m、車いすを自走させることが、唯一の運動になっているそう。

車が大好きな信寿さんの趣味は車いじりとドライブで、休日、車好きの仲間と公園の駐車場に集って車談義をしたり、連れだつて道央圏をドライブしたり。

「車仲間は障がいのない人ばかり。みんな、車をカスタマイズするのが好きなんです。その話になると特に盛り上がります」と語る言葉も弾んでいます。

一方、夢乃さんは、信寿さんと出会って以後、社会福祉士や精神保健福祉士などの資格を取得して仕事に生かし、福祉系大学の大学院にも通い、年5〜6回は仙台へ。現在、修士論文に取り組んでいるので、仕事・車いすラグビーをはじめとするパラスポーツ活動・学業とで八面六臂の大奮闘。信寿さんが目覚める朝7時には、すでに出動しています。

「夫は食事に関して、さほど興味がないので、助かっています」と夢乃さん。

手の込んだ料理を作る時間はなくても、朝食のみそ汁づくりを日課とし、時折、信寿さんの好物のカレーづくり腕をふるっているとのこと。

互いを理解し 尊敬し高め合う

「自分のことは自分でする」を信条とする信寿さん。例えば、入浴するときは、寝室の電動ベッドを操作して車いすの高さに合わせて移乗し、電動ベッドを上げて床に降り、浴室まで腕力を使いはつて移動。バスマットの上に座つて体を洗っているときは、上体が倒れないよう細心の注意を払い、洗い終わると、衣類を着て、はつて寝室へ行き、また電動ベッドを使つて車いすに移乗します。

ことほどさように、一つの動作をするのに体力も時間も要し、「自分のことは自分でする」ということは、それが連続するわけですから、強い意志と努力なしにかなえられないものではありません。

「車の運転をはじめ、諦めないで努力し挑戦し続けている夫を尊敬しています」と夢乃さん。「しっかりしていて、話が合う。出会ったときの印象は、今も変わりません」と信寿さん。

尊敬し高め合うお二人は、以心伝心。それが心豊かに暮らす原点にもなっているようです。



浴室(2階)の出入り口もフラットに。信寿さんはバスマットに腰を下ろし、奥のカウンターにもたれ、自力で身体を洗っている。



リングそばの多機能トイレ。上体が前に倒れたときに支えとなるよう、便器の前面に可動式手すりを設置している。

思えば一つ。「小樽の街にあかりを広めよう」

冬の小樽の風物詩となつている「小樽雪あかりの路」。コロナ禍でイベント中止の間も「雪あかり」をともし続けた実行委員会検討委員長の近藤修弘さんと同事務局の小林勝弘さんに、「雪あかり」が生む喜びとパワーを語っていただきました。

取材・文／大藤紀美枝

冬の一大イベントが コロナ禍で中止に

1999年にスタートした雪とろうそくのあかりの祭典「小樽雪あかりの路」は、「参加型」「手づくり」を重視して回を重ね、国内外に知られる一大イベントとなりました。

雪景色の中、スノーキャンドルのあかりが小樽運河を縁取り、水面に浮き玉キャンドルの灯火が揺れる光景は、最も知られるところ。こうした



近藤修弘さん（左）と小林勝弘さん（右）



①



②



③

- ①小樽運河会場のロマンチックな雪あかり
②坂道を彩る町内会の雪あかり
③家族で作った楽しい雪あかり

①～③写真提供：小樽雪あかりの路実行委員会

大会場はもちろん、商店街、雪道、家庭の庭先にもスノーキャンドルなどの「雪あかり」がとるものが、同イベントの最大の特徴と言えるでしょう。「小樽雪あかりの路」は、町内会、市民ボランティア、各種団体、道内外や海外（韓国、台湾等）からのボランティアの協働で成り立っています」

そう話す小樽雪あかりの路実行委員会検討委員長の近藤修弘さんは、建設会社の役員。2019年の第21回から重責を担い、「コロナが流行し始めた頃から、小樽雪あかりの路を開催する・しないで、実行委員会はかんかんがくがくでした」と対応に苦慮した日々を振り返ります。

小樽雪あかりの路実行委員会は、小樽市観光振興室が事務局を引き受けており、担当の小林勝弘さんは、「会場や散策路の許可申請し、予算を確

保し、パンフレットも作りましたが、2021年の第23回は中止せざるを得ませんでした」としみじみ語ります。

コロナ禍は翌年も続き、第24回は有志でこちんまりと「雪あかり」をともしたそうです。

創設の思いを受け継ぎ 「あかり人」を増やす

「コロナ感染防止のため自粛を余儀なくされた2年でしたが、貴重な『気づき』がありました」と近藤さんは言います。

「イベントが開催できず、自宅で思い思いの『雪あかり』をともすことしかできない状況になつて、諸先輩方が小樽の街にあかりを広めようとした原

点に立ち返った気がしました。それは、誰もが感じたことですよ」との近藤さんの言葉に、小林さんも深くうなずきます。

小樽雪あかりの路に込めた先人の思いを今一度、市民にしっかりと伝えようと、小樽雪あかりの路実行委員会は、自宅や店先にあかりをともす「あかり人」になろうと呼びかけ、バケツキャンドルや雪玉キャン

ドルなどの作り方をPR。その中の一つ、表面に押し花をあしらったワックスボールは、短くなつたろうそくを集め、鍋で溶かして再生させたもの。近藤さんは、家族で春から花を育て、押し花にし、ワックスボールにあしらひ、「雪あかり」にしていくそう、一年を通じて「あかり人」ならではの楽しみを満喫。一方、小林さんは、多くの「あかり人」が使い勝手のよい公認ろうそくを手軽に入手できるよう、工夫を重ねています。

小樽雪あかりの路に関わる人々の取り組みは、雪を避けるのではなく、親しむことで楽しみが増え、家族や仲間と一緒



公式ろうそくとワックスボール

第26回小樽雪あかりの路

（開催予定期間）

2024年

2月10日（土）～2月17日（土）

小樽雪あかりの路実行委員会事務局
（小樽市産業港湾部観光振興室内）
小樽市港町4-3

TEL:0134-32-4111（内線7267）

URL:<http://yukiakarinomichi.org>

公益財団法人「ノーマライゼーション住宅財団」 の活動をご紹介します

小誌『WITH LIFE』を発行している当財団は平成元年設立、公益に資する法人として、「ノーマライゼーションの理念に基づき、高齢者や障がい者にとっても安全で安心して快適に暮らせる住生活の整備・向上を通して、すべての人が生きがいをもって生活できる社会づくりと、社会福祉の増進に寄与する」ことを[目的]に、主なものとして下記の[事業]を行っています。

- 当財団では、活動理念・趣旨にご賛同いただける方へ、「賛助会員」の入会をお願いしております。
- 当財団へのお問合せは、本号2頁記載の連絡先へお願いいたします。
- 当財団の詳細につきましては、ホームページ (<http://normalize.or.jp/>) をご覧ください。

1 広報誌『WITH LIFE』 「共に生きる」発行

生涯、快適に暮らしたいをテーマに、ノーマライゼーションの理念と実践を紹介する当財団の広報誌です。ノーマライゼーションを実践されている方々による具体策、また、関連事例、関連情報源、福祉住宅の実例などの役立つ情報を紹介しています。

■本号通巻58号。バックナンバーを無料提供いたします。



2 助成金により福祉住宅の 建築を支援

高齢者や障がい者にとっても安全で快適に暮らせる住宅、また将来身体機能が低下しても安心して生活できる住宅として新築したりリフォームした建築主、およびグループホームや高齢者向けアパートなどの福祉小規模集合住宅の建築主から応募を受け、審査のうえ今後の参考に資する施工物件に対し

て助成金を給付し、また特に優れた物件については設計施工業者さんを表彰させていただきます。

■本年度の募集要項(概要)は左記の通りです。詳しくは当財団までお問合せください。

●募集期間 5月1日～11月30日
(締切間近)

●応募方法 当財団ホームページから所定申請書をダウンロードして必要事項記入・提出

●助成金 一件5万円～30万円
(総額300万円範囲内)

3 福祉住宅建築助成 実例集『ふれあい』発行

前項の助成対象物件の中から、さらに選考された事例を、写真や図面つきで紹介しています。専門家のアドバイスや、工夫した点、実際暮らしてみた感想なども綴られています。福祉住宅として新築・リフォームを考えている方などにお役立ていただいております。

■通巻33号。バックナンバーを無料提供いたします。



4 小中学生による 「安全快適アイデア」コンテスト

お年よりや障がいのある人が安心して快適に生活できるための、身近な道具・用具、また安全に外出を楽しめる環境づくりなど、様々な「安全・快適アイデア」を小中学生から絵と文字で提案してもらいます。

■入賞作品 昨年度分は本誌57号掲載、本年度分は次号掲載予定です。

■募集要項 本年度(終了)は左記の通り。来年度も同様予定です。

●募集期間 6月1日～10月31日

●応募規格 画用紙(八つ切り)

●応募方法 当財団ホームページから所定の応募票をダウンロードして必要事項を記入し、作品の裏面に添付

5 福祉事情に関する情報収集 及び提供

国内外各地の福祉施設や福祉事情などを視察し、小誌『WITH LIFE』でレポートを発表し、また「報告集」を発行しています。

■詳細は当財団へお問合せください。





生涯、快適に暮らしたい。